

# 都市近郊と山村における 森林・林業意識調査

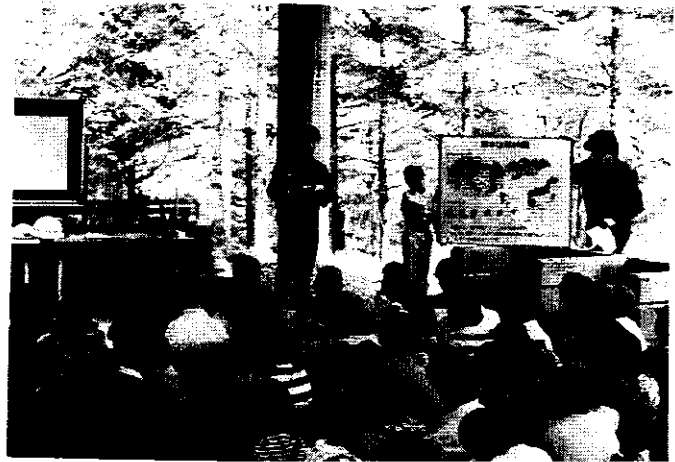
白田・南牧森林事務所 ○ 今村 正之  
川上森林事務所 北沢 伸之

はじめに

近年、自然環境・森林・林業に対する関心の高まり、余暇の増大、学校週休二日制の導入、また、教育課程の中での林業の取扱いと、今後森林・林業に対する意識は大きく変化していくものと予想される。

この様な状況の中、当署においては昭和61年より森林教室を実施しているが、小学生に森林・林業をどのように理解させ、知識を身につけさせるか、その実施内容、方法等に苦慮しているのが実状である。

また、平成4年度からは、今まで行ってきた森林教室が、受託事業の一つとなった事により、これを契機に都市近郊部と山村部における小学生とその親は、自然環境、森林、林業に対して、どのような考えや意識を持っているか、調査を実施することにより、都市近郊部と山村部における意識の違いを考察し、今後の森林教室を効果的に行う上で参考にし、また併せて収入確保の一助となればと考え調査を実施した。



## 1 アンケート調査概要

### (1) 調査対象者

意識調査の対象者は、白田宮林署南牧森林事務所管内で貸付をしている埼玉県志木市少年自然の家で、森林教室を実施した志木市立第三小学校五年生60名、また、地元の南牧村南・北小学校五年生47名、及びその父母を対象に森林・林業の知識、関心度等について実施をした。

## (2) アンケートの内容

実施したアンケートの調査内容については、別紙アンケート調査集計結果のとおり子供は4項目、父母は1項目に分類し、それぞれ質問した。

## (3) 調査を行った志木市、南牧村の概況

{埼玉県志木市}

志木市は埼玉県の南東部に位置し、市の中央には新河岸川と柳瀬川が流れ、平坦な土地で古くは舟での運搬を利用した商業の町として栄え、現在は志木駅から都心まで20分という好条件のため、昭和40年代から人口が急激に増加し現在は人口62,000人の首都近郊都市であり、産業は商工業が中心となっているが、まだまだ自然が残っている環境にある。

{南牧村}

南牧村は山梨県の清里高原に接する場所に位置し、八ヶ岳連峰の裾野には野辺山高原があり、戦後から開拓が進み、現在は全国屈指の高冷地農業が確立されたことにより、専業農家が多く最近では観光開発にも力をいれて、村の活性化を図っている。

## 2 小学生アンケートの調査結果の分析

### (1) 家族との森林散策経験

「家族で森や林に行った回数は？」の問いに対して「行かない」という回答が、都市近郊の子供が40%、地元の子供が66%と地元の子供が多いのは以外であった。

これは南牧村は高原野菜、畜産等の専業農家が多いため、時期的に家族で行くのは少ないと思われた。

### (2) 森林・林業を学んだ経験

「家で森林・林業について話したことはありますか？」の問に対して「話したことがない」と回答した都市近郊の子供は48%、地元の子供が85%と都市近郊の子供の倍ちかい回答になり、また「学校で森林・林業を学んだことがありますか？」では「学んだことがある」と答えた都市近郊の子供は25%、地元の子供が85%と都市近郊部の子供は家庭で、地元の子供は学校で、森林・林業の知識を得ていることが伺うことができた。

### (3) 森林・林業に対する知識

「山の木は伐った後に植えたり手入れをしていることを知っていますか？」の問いに対し「知っている」と答えた都市近郊の子供は33%、地元の子供は57%と都市近郊の子供が少ない結果となった。これは身の回りで林業が行われているか、いかに左右されているものと思われたと同時に、都市近郊部の子供の「知らない」の63%という数字は全く知らないのではなく、植えることくらいは知っているが、その後の保育作業について知らないために、この様な結果になったものと思われた。

### (4) 森や林についての学習意識

「森や林で関心をもつものは？」の問をしたところ、都市近郊部の子供は植物が極端に少なく、それ以外は均一のとれた形となり、地元の子供は動物の47%が圧倒的に多く、他はどれも同じ位の割合だったが、樹木に関心を持つ子供は一人もいなかった。

どちらも野鳥、昆虫、動物と答えたものが多い結果が得られたのは、テレビ、新聞等でこれらのもを最近、多く扱っていることが一つの原因と思われた。

また、都市近郊部の子供の植物が少なかったこと、地元の子供の樹木が一人もいなかったことは、都市近郊部の子供は家族で森や林に行っているとは言え、森や林が身近でないために、森や林の植物まで連想されなかったと思われ、また、地元の子供は身近に当たり



前に樹木が、生えているため関心が沸かないのではないかと思われた。

次に「森や林についてもっと知りたいと思いませんか？」では、「はい」と答えた子供が都市近郊では37%、「分からない」が40%、地元では「はい」が23%、「分からない」が51%となり、また「森や林の手入れに参加したいと思いますか？」では、「参加したい」と答えたのは都市近郊で32%、「分からない」が33%、地元は「参加したい」が15%、「分からない」が51%と、どちらも「知りたい」「参加したい」の回答は低いものだったが、「分からない」との回答が、かなり多かった事から、今後、森林教室のやり方次第で「知りたい」「参加したい」という意識に変

えて行く余地は十分あると思われた。

### 3 父母アンケートの調査結果、分析

#### (1) 森林・林業・自然環境を子供にどのように理解させるか。

「森林・林業を子供に理解させるにはどんな方法がよいか？」の間に筆記のかたちで回答して頂いたところ、都市近郊部、地元の父母とも要約すると次ぎの結果となった。「実際に自然の中に触れさせ学習させる」のような森林体験型学習が最も多く、次いで「テレビ、ビデオで学習させる」視聴覚学習、「説明して教育させる」家庭内学習等のような順になった。

それに関連して「子供が自然とふれあうことは必要だと思いますか？」という問をしたところ、「必要ない」と答えた人は都市近郊部、地元の父母とも一人もなく、ほとんど全員が「必要だ」だと思っていることも分かった。しかし、実際に「森や林の手入れに参加したいと思いますか？」の問いに対して、都市近郊の父母は「参加したい」が30%、「したくない」が32%、「わからない」が38%、地元の父母は「参加したい」が40%、「したくない」が34%、「わからない」が26%、と言う複雑な結果に別れてしまった。都市近郊部、地元の父母とも頭では森林・林業・自然環境を理解させるための理想的な教育方法をさせたいと思っているにも拘らず、実際に子供と森や林の手入れに参加するとなると、「危険だ」「場所が遠い」「時間が無い」「農作業の時期と重なる」「めんどくさい」等のような事から消極的な考えに変わってしまうように見受けられた。また、自分たちが行くことでモラルの悪さから（ゴミ問題も含め）自然が壊れる等のような考えを持っている人も少数ながら見受けられた。

また、「森林の役割について一番子供に教えたことは？」の問いに対しては、都市近郊部の父母は自然環境、国土保全、大気の浄化、木材生産、生活環境、水資源の順番になり、地元の父母は大気の浄化、国土保全、水資源、自然環境、木材生産と言うような順番だった。どちらも木材生産が低くなっているのは、「木を伐ることが自然の破壊につながる」ようなことに考えているためではないかと思われた。それから、都市近郊部の父母の水資源の重要性をあまり感じていないのには驚かされた。今後、より一層PRを進めて行かないと、林業に対する理解はされないとされた。

#### 4 考察と今後の森林教室について

アンケート調査結果の分析から、都市近郊部の子供は、森林、自然の動物などは山村部の子供より幾分高い知識を、持っている反面、まわりで林業が行われていないためか、林業に対する知識は地元の子供より低い傾向にあった。また、地元の子供は都市近郊部の子供より、身近に豊富な教材に恵まれているにもかかわらず、以外と知識は少ない事も知ることが出来た。

また、どちらの父母も「自然に触れさせ教育することは大切だ」と思っている反面、どちらの子供、父母とも「実際に触れ、森林・林業・自然環境を学ぶことに参加したいか」となると消極的であることも分かった。

以上のようなことから、パンフレットや小冊子を配って説明していくような漫然とした森林教室を行うばかりでなく、聞いている子供達が楽しんで興味を引くようなものにシなくては、だめではないかと思われた。

森林教室の中で子供が森林に興味を持つために、森に住む動物などから森林の大切さを教えることや、ゲームや現在当署の森林教室で行って好評を得ている木工教室、造林作業体験、現地でキノコ汁、トン汁などを作ったりと、工夫を加えることによって、楽しみながら知識を身につけさせるイベント的な森林教室は良いのではないかと思われた。

おわりに

当署管内の市町村には、志木市のような施設もいくつかあるため、各施設に森林教室の実施を積極的に働きかけることによって、森林の重要性を子供に教えていき、収入の増大にも努めていきたい。



今年度から森林教室を受託事業として取り組んだこ

ともあり、一日森林官を任命したり、立木の目測あて、好評だった木工教室と約4時間に亘り実施しているが、子供の心になにか伝わるような森林教室をすべく、今回の調査結果を参考にしながら、実のある森林教室を署をあげて頑張っていきたいと考えている。

〔小学生〕

## I 家族との散策経験

問1 家族で森や林に行った回数？ (年間) (%)

	行かない	1回	2回	3回	5回以上	10回以上
都市近郊	40.0	15.0	20.0	13.3	8.3	3.3
地元	66.0	10.5	4.3	8.5	8.5	2.1

## II 森林・林業を学んだ経験

問1 家で森林・林業について話したことがありますか？ (%)

	はい	いいえ	無回答
都市近郊	38.3	48.3	13.3
地元	12.8	85.1	2.1

問2 学校で森林・林業を学んだことがありますか？ (%)

	はい	いいえ	無回答
都市近郊	25.0	70.0	5.0
地元	85.1	10.6	4.3

## III 森林・林業に対する知識

問1 木は伐った後、植えたり手入れをすることを知っていますか？ (%)

	はい	いいえ	無回答
都市近郊	33.3	63.3	3.3
地元	57.4	40.4	2.1

(父母)

## I 森林・林業・自然環境に関する教育

問1 森林・林業を子供に理解させるにはどんな方法がよいか？ (多い順から)

- 1 実際に自然の中に触れさせ学習させる
- 2 テレビ、ビデオで学習させる
- 3 説明して教育させる
- 4 実際に造林作業を体験させるなど

問2 子供が自然とふれあうことは必要だと思いますか？ (%)

	はい	いいえ	分らない
都市近郊	98.9	0.0	1.1
地元	91.5	0.0	8.5

問3 森や林の手入れに参加したいと思いませんか？ (%)

	はい	いいえ	分らない
都市近郊	30.0	32.2	37.8
地元	40.4	34.0	25.5

問4 森林の役割について一言子供に教えたいことは？ (多い順から)

都市近郊	1 自然環境	地元	1 大気浄化
	2 国土保全		2 国土保全
	3 大気浄化		3 水源確保
	4 木材生産		4 自然環境
	5 生活環境		5 木材生産
	6 水源確保		6 生活環境

## IV 森や林についての学習意識

問1 森や林で関心を持つものは？ (%)

	動物	樹木	資源	鳥獣	昆虫	植物	魚
都市近郊	18.3	20.0	20.0	26.7	1.7	13.3	
地元	46.8	0.0	14.9	12.8	12.8	12.8	

問2 森や林についてもっと知りたいですか？ (%)

	はい	いいえ	無回答
都市近郊	36.7	23.3	40.0
地元	23.4	25.5	51.1

問3 森や林の手入れに参加したいと思いませんか？ (%)

	はい	いいえ	無回答
都市近郊	31.7	35.0	33.3
地元	14.9	34.0	51.1

## 調査対象者

都市近郊部対象者

埼玉県 志木市立第3小学校 5年生 60名

地元対象者

長野県 南牧村 南・北小学校 5年生 47名